

第二成田記念病院 入院患者様へ

当院では下記に臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性がある方で、診療情報等を研究目的に利用又は提供されることを希望されない場合に、下記問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題	「回復期脳卒中患者の重症度別運動 FIM 利得の検討 第 2 報」 ＜後ろ向き研究＞
当院の研究責任者	リハビリ室 室長 後藤健一
情報を提供する他の研究機関	穂の国脳卒中医療連携研究会
本研究の概要	本研究では、穂の国脳卒中医療連携研究会の回復期リハビリテーション病院データを用いて、脳卒中患者様の退院時の状態（帰結）を予測する方法について、運動 FIM という指標を使って検討しました。 回復期リハビリテーション病棟に入院した脳卒中患者様について、入院当初ほとんどの動作に対し介助を必要とする重症の患者様では大きな改善が難しい場合が多いと報告されていますが、年齢の若い方、発症からの日数が少ない方が良好な方については、重症脳卒中であっても、運動機能が大きく改善する可能性があることが本研究結果から示唆されました。また脳梗塞と脳出血例では、脳出血例の方が比較的機能回復は良好であることが示唆されました。 回復期リハビリテーション病棟に入院した脳卒中患者様の退院時の帰結予測は、退院後の状態を判断し、目標の設定を行う上で不可欠です。また患者様や家族様に具体的な情報を提供する場合には、適切な帰結予測が大変重要であると考えられます。そのため、個人の主観や経験論のみでなく、科学的根拠に基づいたより精度の高い帰結予測が望まれます。今後さらに詳細な予測が出来るよう、研究していきます。
調査データの該当期間	2013 年 4 月～2022 年 3 月
研究対象・研究方法	対象は 2013 年 4 月から 2022 年 3 月に穂の国脳卒中医療連携研究会参加施設の回復期リハビリテーション病棟を退院した脳卒中患者（脳梗塞・脳出血）。当院退院患者様です。 入院時の重症度で 6 群に層別化して、各群年齢・発症からの日数、病型（脳梗塞・脳出血）と退院時の運動機能（運動 FIM）との関係について統計的手法を使って検討しました。 尚、個人情報 は全てデータ化して、個人が特定できないように処理したうえで分析を行いました。

	また、当院以外の穂の国脳卒中医療連携研究会参加施設からは、あらかじめ同意を頂いたうえでデータを提供していただきました。
結果の公表	学会や論文で公表します
利益相反	本研究に関連し、開示すべき COI 関係にある企業などはありません。
お問い合わせ先	第二成田記念病院 0532-51-5666 （平日 9～17 時） 担当者 後藤健一